

編集後記

今月の特集として「片麻痺のリハビリテーション」をおとどけする。最近の10年間に片麻痺のリハならびにその周辺におこった大きな進歩といえ、まず、脳卒中に関しては、その診断にCTが導入されたこと、ならびに脳外科手術の進歩発達であり、片麻痺のリハに関しては synergy movement を中心とする機能回復の段階づけ、facilitation technique の普及、失行・失認に関する知見の集積、変形に対する phenol block、腱延長術・移行術等の外科手術の導入などがあげられるであろう。

今回の特集でとりあげたテーマも上記の諸項目とならぶ大きな問題点である。石田暉・千野直一氏による「Biofeedback 治療法」はまだ最終的な評価が下されていない大きな可能性をかかえた新しい治療法である。固有感覚の障害や失認に有効であるといわれていることは、片麻痺のリハにおける大きな武器になりうる可能性をもっているものといえよう。石神重信氏らによる「プラスチック短下肢装具」では、従来型の短下肢装具の領域を

かなり大きく蚕食しつつあるプラスチック装具についての豊かな経験からその長所と短所が詳しくのべられている。福井圀彦氏による「運動失調症」、山之内博氏による「けいれん発作」、宮崎一興氏による「排尿障害」はいずれも片麻痺のリハにおける重大な合併症でありながら、リハの立場からまとめられたことの少ないテーマである。日常、片麻痺のリハ診療にたずさわるものにとっては良い指針によるものと思われる。

今月の講座は井奥匡彦氏の「H波」に関するもので、偶々片麻痺と関係の深いテーマで興味深い。

菅原正信氏の巻頭言は極めて感動的であった。子供達に無限の可能性を期待して努力をかたむけると、脳の可塑性に期待し、そのご努力の報われんことを祈る次第である。

最後に「研究と報告」欄にすぐれた論文を積極的にご投稿いただくようお願い申し上げます。

(横山 巖)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水 野 祥 太 郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
荻 島 秀 男
土 屋 弘 吉
横 山 巖
千 野 直 一

編集同人

赤 津 隆
今 村 拓
今 田 哲 夫
江 口 寿 栄 夫
小 野 啓 郎
河 邨 文 一 郎
五 味 重 春
沢 村 誠 志
杉 山 尚
武 智 秀 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
間 得 之
長 谷 川 恒 雄
橋 倉 一 裕
平 方 義 信
福 井 圀 彦
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
遠 藤 千 恵 子
小 川 孟
加 藤 一 郎
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
陳 慧 玉
土 屋 和 夫
松 村 秩
(以上五十音順、敬称略)

(細田、鹿島)

次号予告 (第6巻第11号)

特 集 リハビリテーションにおけるハリの応用

特集にあたって……………七沢病院 横 山 巖
ハリ治療による鎮痛作用の機序……………北里大学 相 川 貞 男
経絡の西洋医学的検討……………筑波大 芹 沢 勝 助・他
片麻痺リハビリテーションにおけるハリ治療……………七沢病院 丹 沢 章 八
Therapeutic Care としての針灸術の評価と評価方法

……………玉川病院 光 藤 英 彦
ハリ治療効果と生体の変化(血液生化学的な面から)

……………所沢整形外科 高 濱 晶 彦
中国におけるハリ治療の現況……………こども医療センター 陣 内 一 保
低周波による経皮的経絡通電法(ハリを使わないハリ治療)

……………神奈川リハセンター 田 口 順 子
講 座 筋・神経系の電気診断(11)(脊髄波)……………東大 黒 川 高 秀
一貫講座 リハビリテーション用語集(5)……………都老人研 鎌 倉 矩 子